

【会議結果報告】 第 1 回 長崎県観光審議会

日 時	令和7年4月25日 (金) 14:00 ～ 16:00		
場 所	長崎県庁312会議室（オンライン併用）		
出席者	（会場） 井上会長、河野委員、青木委員、齊藤（も）委員、福田委員、宮崎委員、山口（弘）委員、古川委員、桑原委員、小笠原委員 （オンライン）山口（昌）委員、平山委員、齊藤（晶）委員、川口委員 ＜委員名を非公表とする場合の理由＞		
事務局	観光振興課		
公開状況	傍聴	可 （一部傍聴を含む）	結果公表 可 （一部公表を含む）
議 題	【審議事項】 （１）次期長崎県観光振興基本計画の策定について（骨子（案）に関する意見交換） 【報告事項】 （１）観光振興財源検討専門委員会委員の報告について		
議事概要	【審議事項】 （１）次期長崎県観光振興基本計画の策定について（骨子（案）に関する意見交換） 事務局から資料に基づいて説明がなされ、次のような質疑が行われた。 ・将来像や目的を明確にしたうえで目標を検討していくとともに、施策全体を貫く共通理念や横ぐしとなるテーマを設定することで、一体感と方向性のある観光戦略が構築されるのではないかな。 ・リピーター戦略では、修学旅行経験者のような若年層の再訪者と目的特化型の層でアプローチが異なるため、分類と目的の明確化が必要であり、多感な時期の長崎の記憶がポジティブに残るというアドバンテージを活かした若年層の誘致は不可欠な施策といえる。 ・基本目標については、単価は個人・団体・修学旅行・海外などのカテゴリーやシーズンによって大きく異なるため、より多くのステークホルダーが観光によって収益を得られるという観点からも、観光消費額の総額を重視すべきではないか。 ・個人旅行への対応が課題となる中、雲仙では高単価旅館の増加が見られるが、持続可能な体制作りが重要な課題であり、「高付加価値」という言葉は価格だけでなく、多様な関係者にとっての価値を意識する視点で捉えることが求められる。 ・プロモーションにおける訴求ポイントは欲張らずに絞り込み、長崎の独自資源を活かしたタグラインで魅力を明確に伝えるとともに、ターゲットは年齢や性別ではなく、食や歴史などの興味・関心に基づいて属性横断的に設定することが効果的である。 ・現状のSWOT分析に基づく施策案に加え、必ず行うべき観光の基盤強化や未来に向けて始めるべき施策を丁寧に補完することで、より整合性のある観光計画の構築が可能となる。 【報告事項】 （１）観光振興財源検討専門委員会委員の報告について 事務局から資料に基づいて説明がなされ、次のような質疑が行われた。 「新たな観光振興財源の確保にあたっては、県と市町の調整や制度設計の整合性が不可欠である」や「現場の実務者の意見を丁寧に反映させる必要がある」等の意見が出され、原案のとおり了承された。		